

実施日：12月1日（5校時）	
領域：道徳（特別の教科 道徳）	
取組名：百日かせぎ	
対象：6年生	実施場所：教室
<p>ア ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 栄治の差別に立ち向かおうとする気持ちと、大木さんや青年の差別をなくし平等に接しようとする気持ちについて考えることを通して、主体的に差別のない明るい社会をつくろうとする道徳的意欲を育てる。</li> <li>・ 友だちとの意見交流を通して、多様な考えに気付き、仲間と共に伸びていこうとする態度を育てる。</li> </ul>	
<p>イ 指導内容（指導略案）や取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話し合いでは、自分の立場を明確にするために、色のプレートを使って視覚化し、考えが変化した時はプレートの色を変えることで、意見の変化や強い思いに注目しながら話し合いができるようにする。</li> <li>・ 中心発問「日本一のお酒を造るのに一番貢献したのは誰か」では、選択した人物とその理由について考え、話し合いによって差別解消には様々な立場の人の働きかけが大切であることに気付かせる。</li> <li>・ 差別解消に対して「誰かが解決してくれる」ではなく、「自分も解決のためにできる何かがある」という考えをもち、人権課題に向き合っていけるようにする。</li> </ul>	
ウ 連携先：家庭	
<p>エ 連携にむけての取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校内の掲示板に人権啓発の児童のポスターや児童の発表を掲示して、保護者に向けて人権課題解決の啓発を行う。</li> <li>・ 教員や保護者が参加して、各町で課題解決に向けた人権学習を行う。</li> </ul>	
<p>オ 組織的な取組とその点検・評価を行う上での工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7/27に「はじめてみよう これからの部落問題」（講師 稲美町教育委員会 北谷錦也教育長）の研修会を行う。</li> <li>・ 事前研修として、全職員で指導案と模擬授業での検討を行う。</li> <li>・ 事後研修として、中心発問での児童の反応や本時のねらいに迫れたか等の話し合いを行う。</li> <li>・ 3色プレートを使って、自分の立場を明確にして互いの考えを伝え合い、認め合う集団づくりを行っている。</li> </ul>	
カ 評価の方法 ・ 行動観察 ・ 発言 ・ ふり返りシート【別紙⑥】	
<p>キ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中心発問では、人物を選択するにあたり、その人物の行動や発言を基に、プレートの色で自分の立場を明確に説明することによって、三者とも必要な存在であることに気付き、本時のねらいに迫ることができた。</li> <li>・ 中心発問の「お酒造りに一番貢献したのは誰か」では、話し合いの焦点を絞ることで、友だちの様々な見方や考え方があることに気付き、互いに高め合う集団を育むことができた。</li> </ul>	
<p>ク 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 異化的（俯瞰的・外の目）な読みか、同化的（内の目）な読みかは、教材によっても異なるが、課題解決やねらいに沿った進め方について今後検討していく。</li> <li>・ 選択した人物の立場に立ち、その人物のようになりたいとの願いは見られたが、それだけでなく、課題解決に向けて、自分として何ができそうか、何がしたいのかとの考えをもった上で意見交流を行い、多様な考え方を引き出し、より良い人間関係を築いていきたい。</li> </ul>	